

投能力向上を目的とした「投の運動」の授業実践

岡本寛美 (愛媛大学)

1. 目的

本研究の目的は、小学校体育における「投の運動」の指導の現状と課題を明らかにし、この結果を踏まえて、短時間の取り組みで、体育の専門性が十分でない教員でも安全に・安心して・安定した成果を導くことができる「投の運動」の教材を開発し、その有効性を検討することで、小学校体育授業での「投の運動」の指導に役立つ情報や教材を提供することである。

＜研究1＞現役教師を対象とした「投の運動」に関するアンケート調査 小学校の教師125名を対象に、「投の運動」に関する質問紙調査を実施した。(結果と考察については、紙面の都合上省略する。)

＜研究2＞「投の運動」の授業実践

2. 研究方法

- 1) 対象者 T小学校3・4年生28名, F小学校4年生32名. 全3時間の授業実践を行った. 授業者は愛媛大学教育学部学校教育教員養成課程社会科教育専修4回生教員志望の女子学生Wである.
- 2) 教材紹介と指導内容 教材づくりでは以下の3点を重視した. ①指導内容を明確化し, 指導方法の確立を図る. 指導ポイントを「姿勢」「動き」「リズム」とした. ②特別な用具の準備を必要としない. タオル1本で行える教材とした. ③児童一人一人が達成感を味わえるようにする. 教材の課題を明確にし, 学習成果を確認できるようにした.

表1 指導内容と教材

	指導内容	教材
姿勢	投の基本姿勢	①「投げる姿勢」 「ホルトのポーズ・トントン・ギュー・クルッ」というオノマトペを聞いて、3種類の授業の中で継続的に行った。
	肩甲骨回りのストレッチ	②タオルエクササイズ 毎時間のウォーミングアップとして、前で映像を流し、音楽に合わせて行った。肩甲骨回りのストレッチや腕を大きく回す動き、体を大きくひねること
動き	手首のスナップ	③くるくるスロー タオルの両端を結び、片端を3本の指で握って投げる。手首を上手く使って投げることであれば、タオルが回転する教材である。
	力の強弱(フォロースルー)	④風おこし タオルの片端を結び、3本の指で握ってタオルを振り、その風で的を撃つ教材である。
リズム	体幹(上半身)のひねり	⑤ひねりスロー 下半身の動きを制限するために両膝を揃えて膝立ちし、上半身のひねりを利用して、的に向かって玉を投げる教材である。
	体重移動	⑥的当てゲーム マットの中心に立ち、踏み出し足をマットの前に出すことで体重移動の感覚を身に付けさせる場を設定し、的当てゲームを行った。

3) 分析方法

1. 技能面の分析 (①投距離 ②投動作)
2. 子どもの「投の運動」に関する意識調査
3. 子どもの運動有能感の変容
4. 授業者とT小学校学担教員へのインタビュー

3. 結果と考察 (今回はT小学校の結果のみを示す。)

- 1) 投距離の変容 20m以上は正確に計測できなかったため中位群と下位群の変容を分析した. 中位群の平均は16.1mから15.4mと0.7m低下し, 下位群の平均は9.9mから11.1mと1.2m向上した.
- 2) 投動作の変容 クラス全体でみると7項目全てにおいて向上がみられ, 群別の投動作の変容については表2に示した.

表2 群別の投動作の変容 (○向上, △変化なし, ×低下)

	ボールの握り方	投げ手反腕	投げ手の高さ	手首のスナップ	フォロースルー	体のひねり	体重移動
上位群	○	△	○	○	×	△	○
中位群	○	○	○	○	△	△	○
下位群	○	○	○	○	○	△	○

- 3) 子どもの「投の運動」に対する意識調査 授業評価, 「投の運動」の評価, 各教材の評価において, 児童の肯定的, 意欲的な意識の向上がみられた.
- 4) 子どもの運動有能感の変容 全ての次元で向上し, 統制感は5%水準で有意差がみられた. 練習の成果を自分の目で確認することができたことで, 運動に対して自信がついたと考えられる.
- 5) 授業者とT小学校学担教員へのインタビュー インタビュー調査の結果, 体育が専門でない教員でも指導しやすかったと考えられる. 指導内容を明確化したことは技能習得に有効であり, コツやポイントを絞って伝えることは投の運動の行い方の理解に繋がった, といった評価が得られた.

4. 結論

本研究では, 以下の3点が成果として確認された. ①投動作の向上がみられたことから, 本研究の教材は投げる動きを高める上で有効だったと言える. ②授業アンケートの結果から, 「投の運動」に対して児童の肯定的, 意欲的な意識の向上がみられ, 運動有能感も高まった. ③インタビュー調査の結果から, 体育が専門でない教員でも指導しやすい教材となっていた.

5. 主な参考文献

- 1) 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領解説体育編
- 2) 重川和真 (2016) 小学校低・中学年「投の運動遊び」・「投の運動」の指導内容と授業実践